












GAP Japan 2025

JGAP/ASIAGAPの今とこれから

2025年11月14日
一般財団法人 日本GAP協会

日本GAP協会の運営するGAP認証基準

ASIAGAP	JGAP(農産)	JGAP(畜産)
 青果物	 青果物	 牛(牛肉)
 穀物	 穀物	 生乳(牛乳)
 茶	 茶	 卵(鶏卵)
		 鶏(鶏肉)
		 豚(豚肉)

日本GAP協会のGAP認証基準は、以下の7つの取り組みから成る。



JGAP	日本における標準的なGAP認証制度
ASIAGAP	JGAPに加えて、GFSIの要求事項を満たした認証制度 ※農業の認証制度の主流が持続可能性に移ってきていることを踏まえ、2025年に承認を返上。2028年運用終了

JGAP基準書の概要(項目)

農産、畜産 共通項目 (農場管理、食品安全、環境保全、 労働安全、人権の尊重)

- 1 農場管理の見える化(5)
- 2 経営者の責任(8)
- 3 人権の尊重と労務管理(9)
- 4 教育訓練・入場者への注意喚起(3)
- 5 外部組織の管理(3)
- 6 商品管理(5)
- 7 生産工程におけるリスク管理(7)
- 8 作業者および入場者の衛生管理(5)
- 9 労働安全管理および事故発生時の対応(7)
- 10 設備・機械等の管理(6)
- 11 エネルギー等の管理、地球温暖化防止(2)
- 12 廃棄物の管理および資源の有効利用(2)
- 13 周辺環境・生物多様性への配慮(4)

農産 専用項目 (食品安全、環境保全)

- C1 土の管理(4)
- C2 水の管理(6)
- C3 圃場・施設の管理(4)
- C4 種苗の管理(3)
- C5 農薬の管理(19)
- C6 肥料等の管理(11)

- S スプラウト類 専用項目(8)
- M きのこと類 専用項目(7)
- P 精米 専用項目(6)
- R 仕上茶専用項目(5)

畜産 専用項目 (家畜衛生、食品安全、 アニマルウェルフェア)

- L1 家畜の飼養管理(7)
- L2 家畜排せつ物の管理(4)
- L3 動物用医薬品の管理(8)
- L4 水の管理(3)
- L5 精液・受精卵・導入家畜の管理(2)
- L6 飼料の管理(4)
- L7 敷料の管理(2)
- L8 識別管理(2)

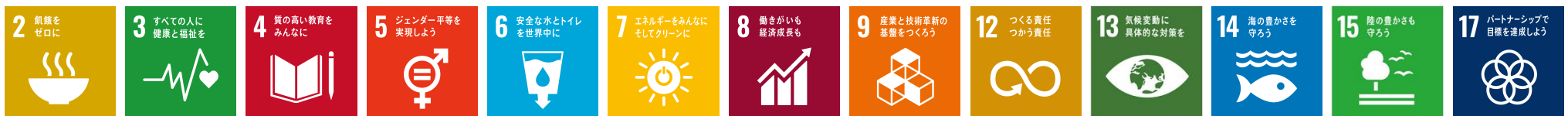
- M 生乳 専用項目(5)
- E 鶏卵 専用項目(3)
- F 自給飼料 専用項目(16)

※括弧内数字は項目数

食品安全、環境保全、労働安全、人権の尊重、
家畜衛生、アニマルウェルフェアに十分な対応

農業のSDGs=JGAP/ASIAGAP

持続可能な未来へ、JGAP/ASIAGAPはSDGsの達成に貢献。



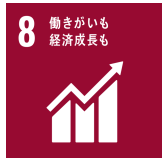
SDGs目標と結びつく取り組み内容の一例



安全で持続可能な農産物を生産・供給



温室効果ガス発生を抑制し、省エネ、再生可能エネルギーの導入



労働者の権利を尊重し、安全で働きやすい職場環境づくり



生産工程の見える化とリスク管理、廃棄物の適正処理



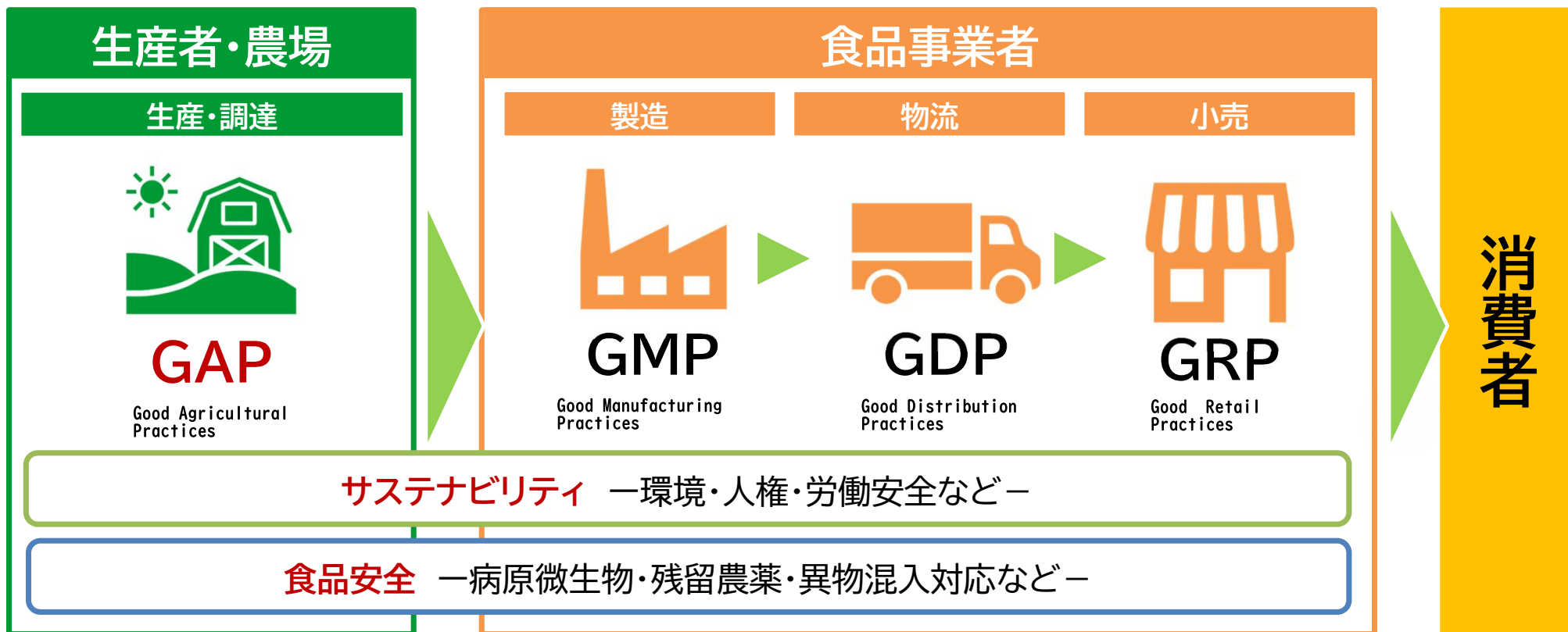
環境負荷の低減と資源の持続可能な利用



生物多様性への配慮
生態系に優しい農業の実践

フードバリューチェーンにおける役割

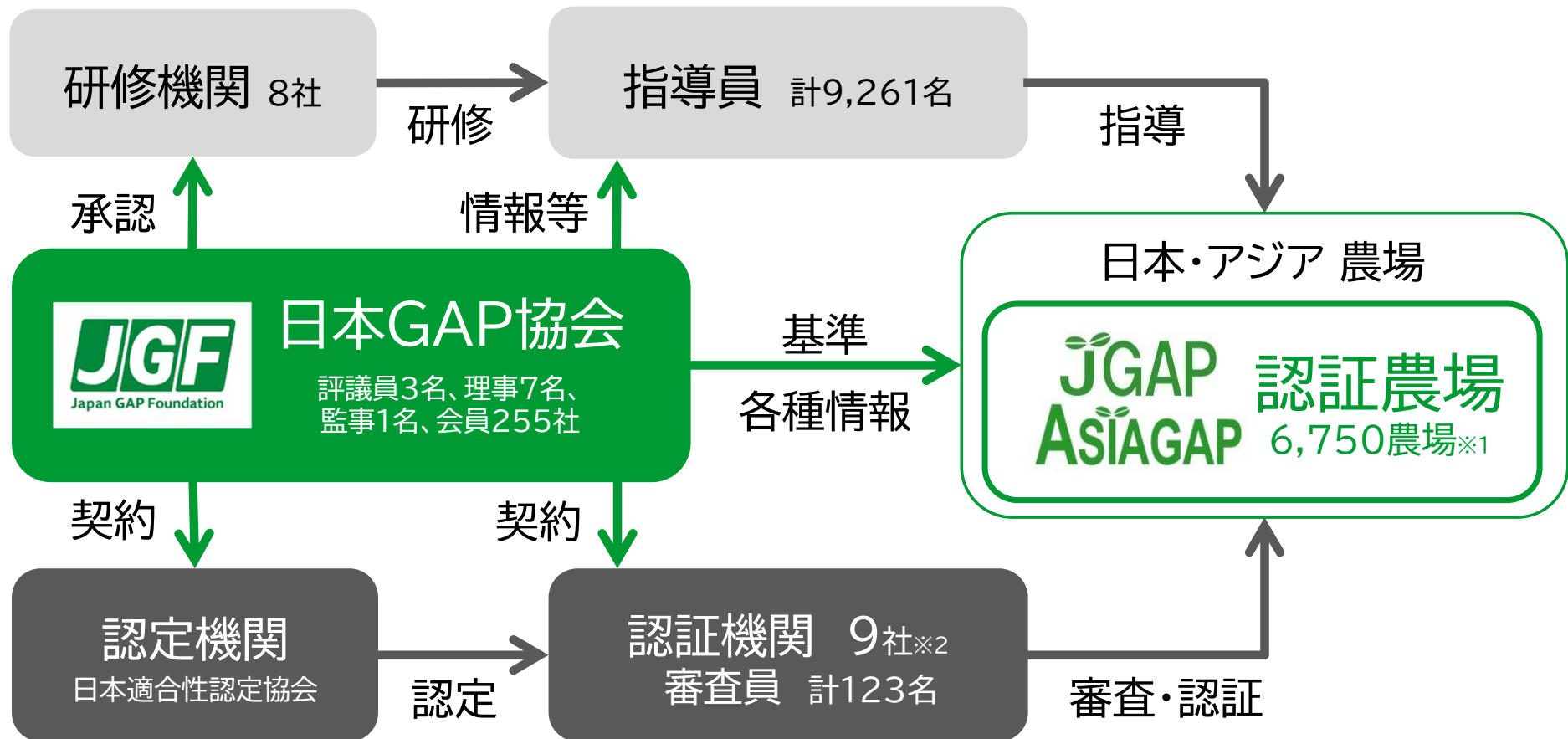
食品事業者内の取り組みに加え、生産者がGAPを実践してこそ、フードバリューチェーンは真に強固なものとなる。



これまでの主なトピック

- 2007 日本GAP協会が民間団体として第三者認証の本格的GAPであるJGAPを運用開始
- 2010 農林水産省「農業生産工程管理(GAP)の共通基盤に関するガイドライン」が策定
- 2017 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における農畜産物の食材調達基準にGAPが採用
- 2018 ASIAGAPがGFSI(*)の承認を取得
 - *GFSI(Global Food Safety Initiative)・・・活動の一つとして、食品安全にかかわる認証プログラムに対し、適合性を判定・承認する仕組み(ベンチマーク)を持ち、適合性を監査。ただし持続可能性の重要な要素である環境、労働安全、人権等は対象としていない。
- 2020 農林水産省「食料・農業・農村基本計画」においてGAPの推進が明記(2025年の改定でも同様に明記)
- 2022 農林水産省「我が国における国際水準GAPの推進方策」および「国際水準GAPガイドライン」の策定
- 2023 大阪・関西万博における農産物、畜産物の調達コードにGAPが採用
- 2024 持続可能な農業の国際規格「FSA」に対応するアドオン規格「+SA」を発表
 - 11月14日が「GAPとSDGs農業の日」として、日本記念日協会により記念日登録
- 2025 GAP普及の一層の加速化を目指し、ASIAGAPの2028年終了とJGAP(+SA)への一本化を発表
 - サグリ(株)と、JGAP/ASIAGAP認証農場の温室効果ガス排出量の可視化に関する共同研究を開始

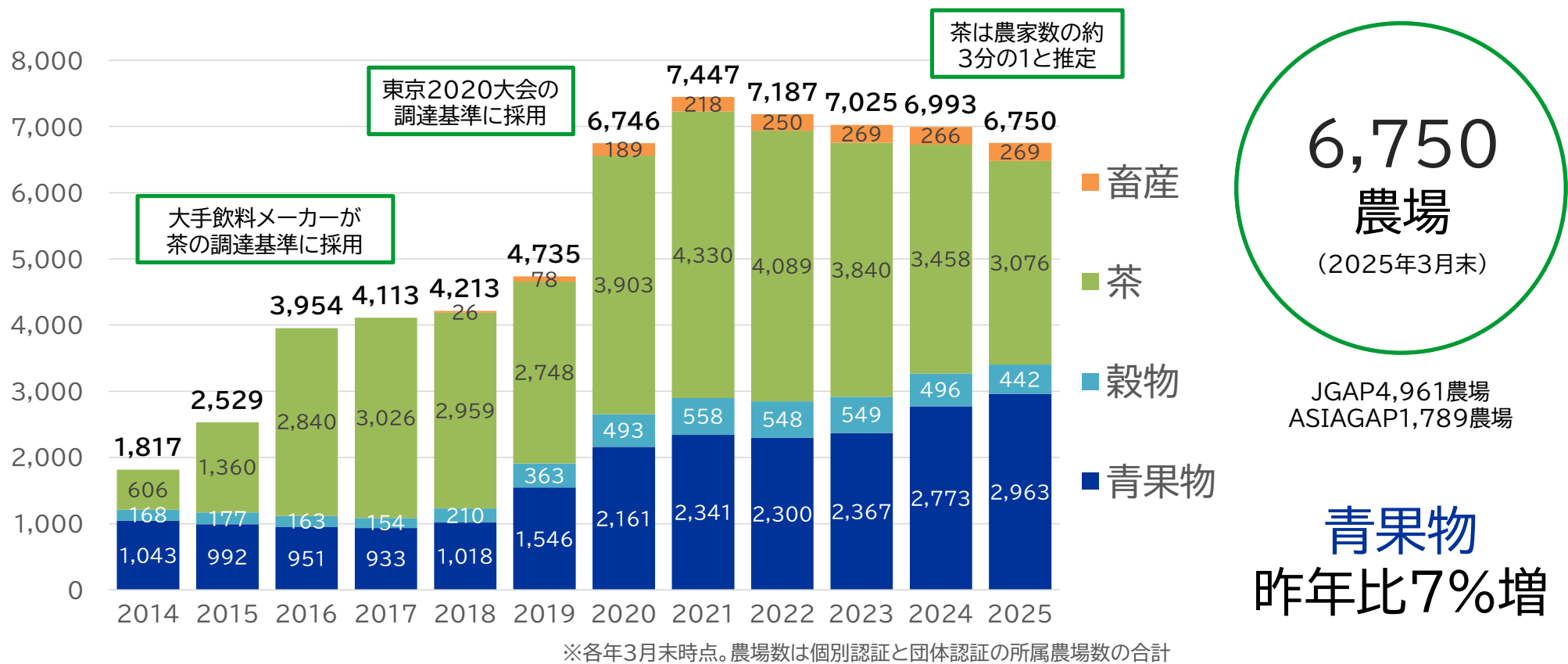
JGAP/ASIAGAPの認証・指導体制



※1:2024年3月末時点。青果物、穀物、茶、家畜・畜産物の合計、※2:畜産の認証機関は日本GAP協会による認定

JGAP/ASIAGAP認証農場数(2025年3月末)

食品事業者の調達推進を背景に、青果物分野で認証取得が広がっている。



食品事業者からの支持の拡大

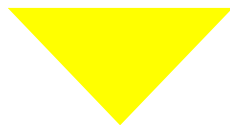
<GAP普及大賞(~2022)、GAP Japanアワード(2023~)の受賞事例>

- ✓ 「セブンファーム」と「顔が見える野菜。果物。」のGAP普及の取り組み: (株)イトーヨーカ堂と(株)セブンファーム (2012年)
- ✓ 産地形成におけるGAP利用のさきがけ: JA東予園芸とゼスプリゴールド部会(2013年)
- ✓ 食品メーカーによる農業の持続性を高めるGAPの取り組み: 日本コカ・コーラ(株)(2015年)
- ✓ 流通企業と全国の若手農業経営者のGAP普及に向けた取り組み: (株)ローソンとローソンファーム社長会 (2016年)
- ✓ GAPによる地域振興への貢献: (株)セブン-イレブン・ジャパン(2022年)
- ✓ GAPを調達基準に位置付けてサステナビリティに配慮した調達を推進: コストコホールセールジャパン(株) (2023年)
- ✓ 国産野菜100%から、JGAP認証農産物使用に向け日本農業を支援: (株)リンガーハット(2024年)



2028年 ASIAGAP終了⇒JGAP一本化へ

JGAPに、食品安全に特化したGFSIの要求事項を上乗せした上位規格として運用されてきたASIAGAPは、GFSI承認を返上し、2028年に運用を終了

The logo for ASIAGAP, featuring the word "ASIAGAP" in a bold, green, sans-serif font. A small green leaf icon is positioned above the letter "I".The logo for JGAP, featuring the word "JGAP" in a bold, green, sans-serif font. A small green leaf icon is positioned above the letter "J". To the right of "JGAP" is a circular logo with a green border, containing the text "+SA" in white. Below this circle, the text "+Sustainable Agriculture" is written in a smaller green font.

GFSI承認返上の主な理由

- ✓ 農場におけるGFSI対応の負担の累積
- ✓ 2024年末に公表されたGFSI要求事項の改定内容が農業現場や審査の実情から更に乖離
- ✓ 国内外でGFSI認証農産物の需要は極めて限定的
- ✓ 農業に関する世界の主流は「持続可能性」対応の認証制度

昨今の農業の認証制度の主流が持続可能性に移ってきていることを踏まえ、食品安全と持続可能性が適度に両立しているJGAP、JGAP+SAに移行

JGAP/ASIAGAPの持続可能性を世界基準とするアドオン規格「+SA」

SAI Platformの評価システム「FSA」について



持続可能な農業を目指し2002年に設立された国際団体で、農協・製造業・小売業者などフードシステムに関わる幅広い業種から、190以上の組織が加盟



「FSA(Farm Sustainability Assessment)」は

SAI Platformが提供する持続可能な農業の実践を評価するシステム
一般的なGAP認証の要求内容に加え、より詳細な水や土壌の管理、生産者が農地の権利を有していること、人権を重視した労務管理の確認などの点に特徴

- 「FSA」自身が農場に対する評価の仕組みを持つだけでなく、他規格とのベンチマークの仕組みを有しており、その際の適合度は、上からゴールド、シルバー、ブロンズの3段階で示される。

JGAP/ASIAGAPの持続可能性を世界基準とするアドオン規格「+SA」

「FSA」対応の考え方

背景

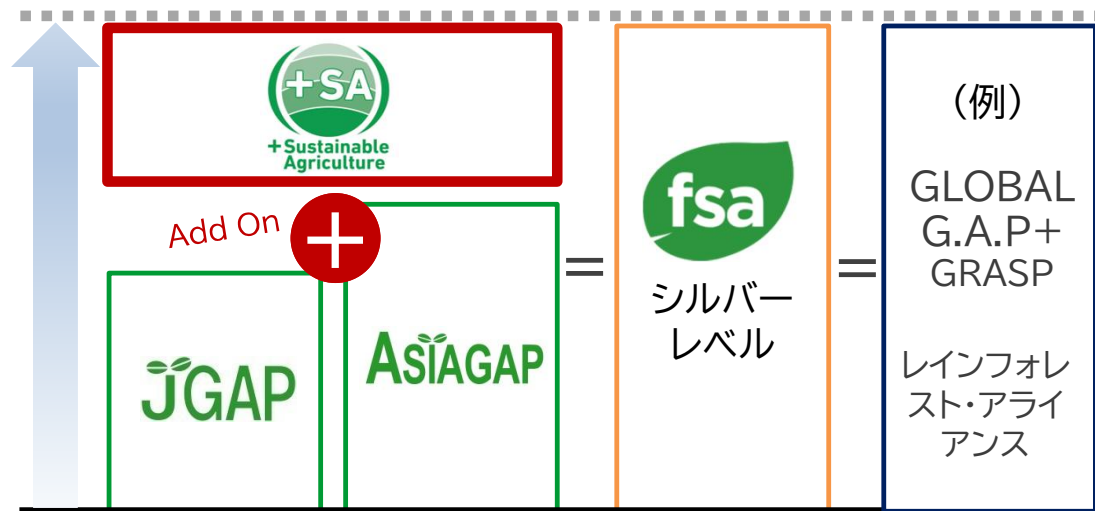
農業の持続可能性を主眼とする「FSA」への世界的な支持が広がっている中、JGAP/ASIAGAPにおいても世界の潮流に対応するため、ベンチマーキングに取り組むこととした。

「FSA」への対応に特化したAdd On(アドオン)規格「+SA」を開発

JGAP/ASIAGAPの両者に対応し、農場のニーズ等に合わせた選択が可能



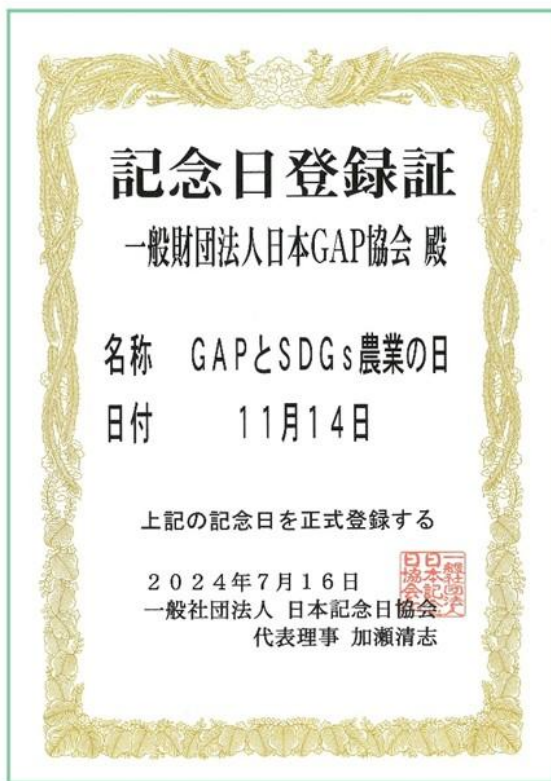
■ベンチマーキング対応レベル



- 現行のJGAP/ASIAGAPによりベンチマーキングに対応するため、不足点については「FSA」への対応に特化した管理点を付加するアドオン規格とした。対応レベルは、レインフォレスト・アライアンス、GLOBALG.A.P.(アドオン規格であるGRASPとの同時取得)が実現しているものと同じシルバーレベル
- このアドオン規格はひとつでJGAP/ASIAGAPの両者に対応するので、どちらの認証取得農場でも対応可能
- 審査は、JGAP、ASIAGAP審査と同時に実施

普及・広報活動例 ①

「GAPとSDGs農業の日」のロゴを公募で決定しました。日本GAP協会Webサイトからダウンロードしてどなたでも活用できますので、是非ご活用下さい。



“未来への切符”をイメージしたチケット型のデザイン。
新たな芽吹きを表す新芽モチーフを重ねました。
シンプルで、使いやすいデザインです。

普及・広報活動例 ②

Instagram キャンペーン



ふるさと納税サイト 特集ページ開設



店頭普及イベント



note開設



JGAPのこれから

① 農業をめぐる国際的な動向への対応

- 持続可能性に関する国際的な動向及びバイヤーのニーズに対応
⇒ SAI Platform、世界の持続可能性認証やアジア諸国との交流
- 輸出拡大への貢献
⇒ 海外バイヤーに対しても、残留農薬基準違反などの食品安全、
環境・人権などの持続可能性に関する信頼性を訴求

JGAPのこれから

② 持続可能性への貢献

- 温室効果ガス排出量の見える化を通じ、農場の努力を企業からの支持にもつなげる
 - ⇒ サグリ(株)との共同研究
- 環境の保全、農場で働く人の労働安全と人権の尊重など、持続可能性・SDGsへの貢献

JGAPのこれから

③ 農業の未来を担う基準開発 一次期JGAPに向けてー

- 持続可能性に貢献すると共に、農場、フードチェーンのリスクを低減
- 最小の労力で最大の効果が上がるGAP
⇒ 農場運営の進化、生産性の向上を実現
- 日本農業の発展に貢献するGAP

※ 認証農場、審査員・指導員、食品事業者、消費者等の意見を反映した開発

本日のシンポジウムが目指すもの



テーマ:GAPと農業の未来

- (1) マクロ的視点からみた、日本農業の課題を踏まえた政策面のグランドデザインとGAP
- (2) 持続可能性に関する新たな取り組みの紹介
- (3) 経営者による経営発展に向けたGAPの活用事例と今後の展望

農業の未来にGAPがどう関わるか、貢献していくかを共に考え、共有しましょう！

私たちは信頼できる農場の目印“JGAP/ASIAGAP”を創っています。



一般財団法人 日本GAP協会

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3番29号 日本農業研究所ビル 4階
TEL: 03-5215-1112 / E-mail: info@jgap.jp / <https://jgap.jp>

- 日本GAP協会メールマガジンを無料配信しています。
日本GAP協会Webサイトからの登録、またはinfo@jgap.jpへメルマガ希望とメール下さい。
- 日本GAP協会では、GAPの普及のために共に活動して頂ける会員を募集しています。
詳しくは日本GAP協会Webサイトをご覧ください。